

国労フクシマ交流学習会

国労水戸

国労水戸地方本部
水戸市中央1-1-11
ENYビル2F
029-221-4008
発行責任者 久保田重明
編集責任者 坂下 司

風化させない取り組みに

11月24日～25日、福島県において、第6回国労フクシマ交流学習会を開催した。

1日目は浪江～夜ノ森駅の復旧工事、双葉町の現地視察を行い、2日目はホテルプリシード郡山にて交流学習会を行った。

交流学習会で国労本部菊池委員長から昨日、現地視察で7年半が経過しても現状は変わらないう。地域と連帯して脱原発の運動強化をしていこうと挨拶した。



鈴木 真宝さん

核廃絶、平和の尊さを訴えた。微力であるが無力ではないと地元に戻り何が出来るかを考え学校、親戚など

**職場の矛盾
仕事の不満
国労に結集し
みんなが相談 解決へ**

～署名を取り組んだ。

橋本靖治さん（自治労双葉町職員組合）から、復旧工事が行われているが、オリンピックに合わせて2020年に復興庁が無くなる。住民を無視している。

事故当時、西へ逃げろとだけ言われ、どこへ逃げたらいいのかわからない。結果各地へ分散してしまった。未だに避難解除にならない。双葉町へ戻す努力はしている。避難先では6割の人が持ち家になって、戻りたくないと言う人もいる。



橋本 靖治さん

人が住める様になるには2020年と言われている。



瓶子 高紘さん

原発災害から7年双葉郡の小中学校の現状と課題について 瓶子高紘さん（福島県教職員組合）から、逃げるのに精一杯で救助もできない。放射能で助けに行けず餓死する人もいたり、高い線量の方へ逃げる人もいた。

震災後は逃げた先でのケアを行い、その子供も転々として、今どうしているのかわからない子供もいる。風評被害を理由に学校、公園にあるモニタリングポストの撤去をする。子供の甲状腺の心配。元通りにして地元に戻っても

生徒は数名しかいない。子供達には当時の事はわからない。教えていかなければならない。

松川書記長より現地を視察して、双葉小学校で黒板に卒業おめでとうと書いてあり卒業式の準備をしていた。時計の針が震災発生時のまま止まっていた。

帰還困難区域が解除にならない。原因は放射能がそうさせている。

福島で何が起きたのか現状を知ることが必要です。核と共存できない。全国の仲間と取り組み連帯していくとまとめた。

汚染水保管の公聴会で東電の説明は基準値以下しか含まれていないと発言。実際は毒性が強く低減期間も長く会議は大荒れになった。是枝監督の「万引き家族」がパルムドールを受賞し、文科省から祝意を述べたいと申し出たが、公権力と距離を置きたいと安倍政権を批判し断った。参議院選挙、統一地方選挙に勝利しようとして閉会挨拶をした。